

質疑応答 (Q. 会場からの質問, A. 講演者回答, C. 会場からのコメント)

【2. Communication is “The Secret” to Mastering English】

Ansel Simpson (発表者), 高橋 茂樹 (発表者)

追加質問不可

概要:

国際標準化活動においては、会議だけが重要なのではない。会議前のメールやSNS, 事前打ち合わせや、会議開催中のコーヒブレーク、ランチ、ディナー、そして会議後のフォローも重要な活動である。そこで必要となるのは、いかに“英語でコミュニケーションできるか”である。

英語でのコミュニケーションがうまくない日本人が多いが、それは間違った教育/学習が原因である。TOEIC や TOEFL は英語の知識を学ぶため、英語のコミュニケーションを学ぶものではない。

コミュニケーションには、まず聞くこと (Listening) が大変重要である。そのうえで、興味のあることについて話す、知りたいことに話を集中する、やるべきことについて話す、ことである。更に理解力、質問力を改善し、自分の意見を論理的に構築することが必要で、これこそが英語でコミュニケーションする鍵である、

Q. 日本人と英語を話す民族とのリスニングに能力の差はあるか？

A. 日本にいる英語を話す民族の人たちは、日本人の理解のスピードに合わせて話すように言われているので、それで英語が理解できるように思っても、実際の英語の世界には通用しない。また、リスニングとは異なるが、適切な質問を適切なタイミングでする能力も磨かなければならない。これはリスニング技術ではなく文化的な違いとも関連する。

Q. 日本人は、知らない人と対話しようとしたがらない。また、相手が話をしている時に質問をしたりする習慣がないようだが、日本人の対話能力はどうか？

A. それぞれの文化の異なる人々との対話は、相手のことに集中してまず聞かなければならない。しかし、日本人は相手の言うことを良く聞こうとしないので、知らない人と対話しようとしたがらない。このことは非常にまずいことである。しかしこのことは、日本人の知的レベルが低いことを意味するものではない。また、良く “We “で話し始めるが、個人の意見を主張する” | “で話をするべきである。これは文化的な課題である。